

接続料の算定等に関する研究会（第55回） 5 GSAの協議状況に関する質問へのご回答

2022年3月11日
ソフトバンク株式会社

1. 機能開放形態ごとの協議状況等
2. 同時期・同機能提供に向けた対応状況
3. その他機能の見通し等

1. 機能開放形態ごとの協議状況等

2

設問（1）

以下の機能開放形態について、協議状況はどうなっているか（提供済み、提供に向けて準備中、協議中、申入れがあったものの協議不成立、申入れなし、のいずれかのステータスを件数と併せて記入）。

- ① L3 接続相当（サービス卸）
- ② ライト VMNO（スライス卸/API 開放）
- ③ L2 接続相当
- ④ フル VMNO（RAN シェアリング）

当社回答

①～④の検討状況については当社から適宜情報提供しており、個別に当社とL2接続しているMVNOにヒアリングも実施しています。

構成員限り

設問（2）

（1）で協議不成立となった事案があった場合、MVNO が実現したいサービスの明確化ができていないことが原因であるものの割合（要望サービスが不明確/協議不成立）がどれくらいあったのか、また、それ以外の理由は何か。

当社回答

現時点で、協議不成立はございません。

1. 機能開放形態ごとの協議状況等

設問 (3)

(1) ①から④までの機能開放形態のうち、実現できていないものについて、今後の機能開放に向けたスケジュールや取組はどうなっているか。

当社回答

当社スケジュール・取組み状況等は以下の通りです。

①L3 接続相当 (サービス卸)	<ul style="list-style-type: none">FY22中に準備が整い次第、MVNO殿に提供できるように検討中
②ライト VMNO (スライス卸+API 開放) ※	<ul style="list-style-type: none">FY22中に提供開始を想定今後、MVNO殿が利用可能なAPI機能を、MVNO殿に提示予定MVNO殿に提供する共通スライスおよびAPI機能の双方が準備出来次第、提供に向けて協議を進めたい
③L2 接続相当	<ul style="list-style-type: none">国際ローミング方式は、3GPP Rel-16において基本的な標準が制定されているが、GSMAにおいて依然として事業者間の接続形態に関するオプションが複数検討されており、2022年10月まではかかる見込みそのため、ベンダーによる開発から商用までの期間を考慮すると、本接続形態を提供できるのは、現時点においても、FY23以降になるものと想定
④フル VMNO (RAN シェアリング)	<ul style="list-style-type: none">事業者間での無線リソースの制御方法、トラフィック制御など広範な検討・整理と国際標準化が必要であり、現時点でも、スケジュールは未定

※APIをモニタリング関連の機能のみに限定し、全てのMVNOが1つのスライスを共用する限定的パターン

設問（1）

上記1.（1）①～④の機能開放形態について、MNO と同時期・同機能の提供が可能とするため、MVNO に対しどのような働きかけ（料金等の提供条件に関して必要な情報提供を行う等）を行ったか。

当社回答

- 2021年8月以降、サービス卸やライトVMNO（スライス卸+API開放）※について、提供形態・開始時期・提供条件・通信速度・通信エリア・SIM・端末について未確定情報も含め情報提供を行い、また、適宜各社の利用意向についてもヒアリングするなどの対応を行っています。
- なお、直近では2月28日に情報を更新しMVNOへ通知しています。

※APIをモニタリング関連の機能のみに限定し、全てのMVNOが1つのスライスを共用する限定的パターン

設問 (2)

MNOとの同時期・同機能提供を可能としている場合、どのようなスケジュール感を提示しているのか。

当社回答

当社提示スケジュール等は以下の通りです。

<p>① L3 接続相当 (サービス卸)</p>	<ul style="list-style-type: none">• FY22中に準備が整い次第 (当社がSAを本格提供開始する時期と同等)• なお、サービス卸のため、MVNO側での設備等は不要
<p>② ライト VMNO (スライス卸+API 開放) ※</p>	<ul style="list-style-type: none">• FY22以降、 提供可能な共通スライスとAPI機能の双方の準備出来次第 <p>構成員限り</p>

※APIをモニタリング関連の機能のみに限定し、全てのMVNOが1つのスライスを共用する限定的パターン

設問（3）

同時期・同機能提供に向けて、現時点で明らかになった課題はあるか（協議が難航する事例、新たなサービスに特有の課題等）。

当社回答

現状新たに明らかになった課題はございません。

設問 (1)

第5次報告書時点では見通しが立っていなかった、既存LTEとの連携、音声通話の実現方法及びMECの活用・連携に関する機能開放の実現の状況又は今後の見通しはどうか。

当社回答

各形態における実現状況・今後の見通しは以下の通りです。

①L3 接続相当 (サービス卸)	<ul style="list-style-type: none">既存LTEも音声通話ともに、利用可能また、MECについては、研究会の中での議論の通り、MVNO独自のMEC提供は困難な見込みであり、現時点でMVNOからの要望も受けていない状況
②ライト VMNO (スライス卸+API 開放) ※	
③L2 接続相当	<ul style="list-style-type: none">国際ローミング方式は、3GPP Rel-16において基本的な標準が制定されているが、GSMAにおいて依然として事業者間の接続形態に関するオプションが複数検討されており、2022年10月まではかかる予定標準化や接続形態に関するオプションの整理結果等を踏まえ、検討を進めることを想定
④フル VMNO (RAN シェアリング)	<ul style="list-style-type: none">現時点では、事業者間での無線リソースの制御方法、トラフィック制御など広範な検討・整理と国際標準化が必要であることから、それらの課題解決を図りつつ、検討を進めることを想定

※APIをモニタリング関連の機能のみに限定し、全てのMVNOが1つのスライスを共用する限定的パターン

EOF